

ピーマン (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長と生殖生長が同時に進行する型である。窒素をはじめ養分を生育後期まで供給する必要があり、収穫後の土壌には養分が残存しやすい。根域は浅いものの肥料に対し鈍感なため多肥栽培されやすい。そのため、他作目との組み合わせなどをはかり、残存養分の過剰な蓄積を回避する必要がある。

〔病害虫・雑草防除〕

灰色かび病等に対しては、花卉残さや罹病果の早期除去等の耕種的防除に留意する。防虫ネットを張り害虫の侵入を防ぐ。育苗期には防虫ネットの被覆等を行って害虫の被害を回避し、圃場に害虫を持ち込まない。生物農薬を導入し、化学農薬の使用削減を図る。周辺の除草は害虫の生育場所を除去することになり、殺虫剤使用減にきわめて有効である。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥 2～3t/10a
化学肥料低減技術	基肥は局所施肥(条施肥など)とする。 肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準以下 有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～50%
化学農薬低減技術	微生物農薬を利用する。 (対象：灰色かび病、うどんこ病、青枯病、ネコブセンチュウ) B T剤をローテーション散布に位置づける。 (対象：オオタバコガ、ハスモンヨトウ) 対抗植物(クロタラリア、ギニアグラス等)を利用する。 (対象：ネコブセンチュウ) 光反射マルチを利用する。 (対象：アブラムシ類、アザミウマ類、雑草など) 育苗期に防虫ネットによる被覆を行う。 (対象：アブラムシ類など) マルチ栽培を行う。 (対象：雑草など)	慣行使用回数の20%減
その他の留意事項	生育後期の養分供給と良好な根系発達を確保するために、下層施肥(深層施肥)も有効な施肥法といえる。この場合には堆肥と有機質肥料等を混合し、下層に条肥することが有効である。 水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止を目的としたきめ細やかな施肥法をとる必要がある。 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。	

ピーマン (施設) (黒ボク土)

〔土壌肥料〕

本作目は、栄養生長と生殖生長が同時に進行する型である。窒素をはじめ養分を生育後期まで供給する必要があり、収穫後の土壌には養分が残存しやすい。根域は浅いものの肥料に対し鈍感なため多肥栽培されやすい。そのため、他作目との組み合わせなどはかり、残存養分の過剰な蓄積を回避する必要がある。

〔病害虫・雑草防除〕

灰色かび病等に対しては、花卉残さや罹病果の早期除去等の耕種的防除に留意する。防虫ネットを張り害虫の侵入を防ぐ。育苗期には防虫ネットの被覆等を行って害虫の被害を回避し、圃場に害虫を持ち込まない。生物農薬を導入し、化学農薬の使用削減を図る。周辺の除草は害虫の生育場所を除去することになり、殺虫剤使用減にきわめて有効である。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	<p>土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。</p> <p>肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。</p> <p>緑肥作物を利用する。</p>	<p>堆肥 2～3t/10a</p>
化学肥料 低減技術	<p>基肥は局所施肥(条施肥など)とする。</p> <p>肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。</p> <p>有機質肥料による施肥を行う。</p>	<p>成分量で慣行施肥量の20%減</p> <p>有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～50%</p>
化学農薬 低減技術	<p>微生物農薬を利用する。 (対象：灰色かび病、うどんこ病、青枯病、ネコブセンチュウ)</p> <p>天敵農薬を利用する。 (対象：アザミウマ類、ハダニ類など)</p> <p>B T 剤をローテーション散布に位置づける。</p> <p>(対象：オオタバコガ、ハスモンヨトウ)</p> <p>対抗植物(クロタラリア、ギニアグラス等)を利用する。(対象：ネコブセンチュウ)</p> <p>夏季に太陽熱土壌消毒を行う。 (対象：各種病害虫、雑草など)</p> <p>点滴性被覆資材を利用する。 (対象：灰色かび病など)</p> <p>近紫外線除去フィルムを利用する。 (対象：灰色かび病、アザミウマ類など)</p> <p>光反射マルチを利用する。 (対象：アブラムシ類、アザミウマ類、雑草など)</p> <p>育苗期に防虫ネットによる被覆を行う。 (対象：アブラムシ類など)</p> <p>開口部やサイドを防虫ネットで被覆する。 (対象：アブラムシ類、アザミウマ類など)</p> <p>マルチ栽培を行う。(対象：雑草など)</p>	<p>慣行使用回数の 20%減</p>
その他の 留意事項	<p>生育後期の養分供給と良好な根系発達を確保するために、下層施肥(深層施肥)も有効な施肥法といえる。この場合には堆肥と有機質肥料等を混合し、下層に条肥することが有効である。</p> <p>水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止を目的としたきめ細やかな施肥法をとる必要がある。</p> <p>盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。</p>	